

全久院報

松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

本年も多くの皆さまに除夜の鐘を撞いていただきました。年の瀬の選挙などあわただしさの中、どんな思いで撞いていただいたのでしょうか。社会全体、世界中が良い方向に向かっていると思えない不安が皆様的心中に渦巻いているのではないのでしょうか。そんな中また1年が過ぎ去り、新たな年を迎えました。本当に1年過ぎるのは早いですね。特に最近時間の流れが益々早くなったように感じます。

私にとっても住職になってから息もつかずに、ずーっと普請が続き、檀家の皆様への寄付のお願いやら、支払が続き、気が休まることがなかったように思います。稲荷堂の屋根の葺き替え、本堂の大屋根の葺き替え、開山堂の屋根の葺き替え、茶室の屋根の葺き替え、勝手の改修、本堂奥のトイレの改修、什物倉庫の改修、寺院用トイレの改修、去年の地震災害の復旧工事などなど。前住職も「自分も住職になってしばらくは工事が続いたぞ」と言っていました。私もその通りになりました。まだ地震で受けた損傷箇所を直してありませんので、気長に、急がず修理をしてゆきたいと思っています。

しかし、修理ばかりに携わってはいただけません。自分のこともしなくて

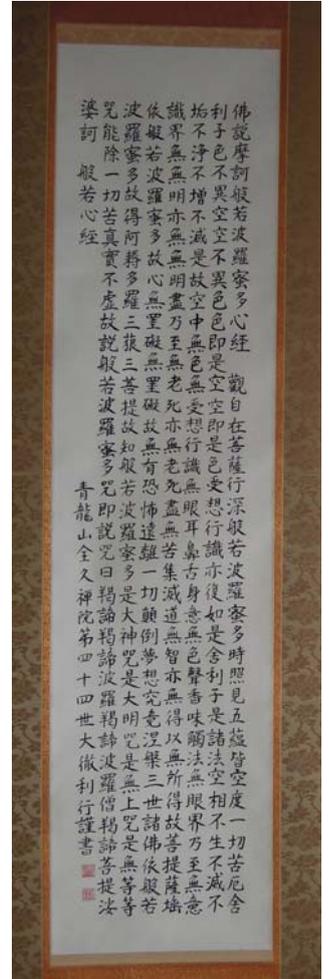


はと、前住職も書き続けた般若心経の写経を始めました。この写真は屋根替えの寄付を沢山いただいた方へのお礼にお渡しするために表具をしたものです。まだまだ気に入った出来栄とは言えませんが、もう2～3年すれば少しは字らしくなってくるかと思えます。

また左の写真は御寺院様用のトイレと寺の什物用の倉庫を改修したものです。来年は漆喰の剥げ落ちてしまった蔵を改修し、一連の改修工事に一区切りつけたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願いたします。

長野県仏教徒大会

昨年6月29日(金)に長野県仏教徒大会を長野県松本文化会館で開催しました。長野県中の全部の宗派の寺院で組織する長野県仏教会の主催で開催されました。東日本大震災復興のための企画をするということで、私は運営企画を担当しました。SVA(シャンティ国際ボランティア会)が岩手県や宮城県に事務所を構え活動していますので、現地で活動する方の情報を集め、講師に3人をお呼びしました。歌う庵主さまとして被災者とともに活動しながらコンサートを開いている、浄土真宗の尼僧さん「やなせ なな」師のコンサートと、SVAの副会長で発災3日目には現地の調査を始めた三部義道師、



ご自分の寺ばかりでなく村全体が津波で全壊となった徳仙寺の住職早坂文明師（やなせさんの歌の作詞も担当しています）の3人の講演を行いました。また、現地の応援ということで、福島・宮城の物産展を計画しました。（左の写真）気仙沼のワカメ、石巻の海苔や海藻、福島の農産物、



仮設住宅の人々の内職で作られたアクリルタワシやキーホルダーなど、50万円ほどの品が完売となりました。

また3人の講演では、「まけないタオル」の紹介がありました。震災に負けない、短くて首には巻けないタオルを1000円で2本買ってもらい、1本はやなせさんのコンサートに来てくれた被災地の方に配る、という活動です。復興が終わるまで続けて、被災された方々のことは忘れない、ずーっと応援する、というシンボルにして活動を続けてゆくとのことでした。私たちの「忘

れないよ」というメッセージが彼らの心の支えだということを知って欲しい、との訴えでした。

お話の中で「普通のこと普通でなくなり、普通でなかったことが普通になった」との話がありました。地震があった頃、いつものように昼食を家族で食べたけど、あの時以来家族で食えることが出来なくなった。今では集まりたくても家族が集まらない。何にも気にしないで、大切だとも思わなかった、家族と一緒にいること、それが普通ではなくなりました。そして1年経つと、亡くなってしまったので家族一緒にいられないことが普通になってしまった。普通でなかった一人の昼食が普通になってしまった、と話されました。体験者でなければ気付かない、話せない言葉でした。



普通であることの大切さを忘れていた私たちに大切なことを気付かせてもらいました。ずーっと応援し続けましょうね。今年も、もう一度東日本の復興を願って仏教徒大会を7月6日(土)、信濃中央仏教会会長の玄向寺様で開催します。ぜひご参加ください。

全久院の集い

坐禅会 ・ ・ 700年～900年 座禅の達人が中国に輩出 ・ ・

坐禅会では「従容録」を勉強していますが、中国の修行僧が師匠と問答をする文章が数多く出てきます。その中に何度も何度も出てくる名前があります。馬祖(709～788年)、百丈(720～814年)、臨濟(?～867年)、趙州(じょうしゅう 778～897年)、雲門(864～949年など、中国の唐時代から宋時代にかけて禅宗の基礎を作り、発展させた方々です。この和尚様方がいなければ今日の禅宗はありませんでした。年齢がすごいでしょ。趙州にいたっては119才です。大変な長生きですね。達磨さまの150才には負けますけどね。

また、曹洞宗の語源になったともいわれる、洞山(とうざん)和尚(807～908年)、曹山(そうざん)和尚(840～901年)もこの時代の方です。洞山の洞、曹山の曹をくっつけて曹洞宗としたといわれる説もあります。

その中に仰山(ぎょうさん)(807～883年)禅師様の問答があります。ある日仰山さまに一人の修行僧が訪ねて来ました。仰山「お前は何処の者か」修行僧「インドの者です」仰山「何時インドを発って来たか」修行僧「今朝です」修行僧が羅漢とわかった仰山は「お前の力

は神通力ではない。神通力と思うお前には、仏法は未だ夢にもならない」と言われ、はっとした羅漢は「支那には文殊様の住まう道場があると聞きやって来ました。今、お釈迦さまに出会いました」と喜びました。という問答です。皆さんお分かりになりました？

禅では毎日の仕事や修行の一つ一つを心をこめて行うこと、日常の普通のことを味（くら）まさず、漠然と流されずに行うことが大神通といわれます。「平常心」「日々是好日」などの禅語がありますが、一度きりの偶然は神通ではない。毎日の百発百中の仕事ができる人、毎日の仕事を味まさず行う事が出来る人を本物と言います。東日本震災の講演をしてくださった早坂師も「普通のことの大切さ」を語っていただきましたが、普通のことを普通に仕事する、普通の生き方が出来るかどうか人間が真価と考えるのが禅です。どんなに大変な局面に遭遇しても平常心で普通に乗り越えてゆく生き方をしたいものです。

ご詠歌 **梅花流御詠歌の県大会** が10月26日（金）に長野市県民文化会館で開催されました。今回の大会で全久院梅花講の滝沢さんが詠頭（えいとう）を務めました。詠頭というのは御詠歌の最初の1句目を唱え始める役です。音程などを間違えると後に続く皆さんの音程を崩してしまうので、大変重要な役です。全久院のご詠歌も認められてこの役が回



って来ました。

右写真の中央が滝沢さんです。相当なプレッシャーがあったと思いますが、上手にお唱えを始められ大役を果たされました。

この大会の担当者は第一宗務所（東北信）の梅花主事さんで、カンボジア視察に同行するなど、私のSVAの知り合いだったこともあり、第一部のセレモニーで曹洞宗宗歌を歌う役を、全久院の大黒に回してくれました。通常はCDで会場に流していましたが、生の声での宗歌斉唱は趣が少し

変わりました。この二つの役を務めあげた、思いでに残る大会となりました。

仏教三知識

続・達磨さま

前号に慧可大師という後継ぎを得たところまで紹介しました。慧可大師という後継ぎを得た達磨さまは名声が広がるにつれて、信者を奪われたと逆恨みする付近の僧侶たちに迫害を受けることもありました。石を投げつけられたり、毒をもられたりしましたが、弟子を育てることに邁進しました。近々自分の役を果たし終わると感じた達磨さまは、ある日「いよいよ西へ帰る時が来た。最後に皆の境地を聞きたい」と、弟子達に問うたのですが、満足する答えもないまま、慧可大師の順番になりました。大師は進み出て、礼をし、席へ戻りました。達磨さまは「お前こそ私の骨髄をそっくり得たものだ。私の皮や肉だけを受けた者とは違う」と述べ、「我が事終れり」と少林寺を引きはらいました。そして150才で長逝したとのこと。

その後も様々な伝説が残されています。逝去後、魏の国の宋雲という人がシルクロードの天山南路を帰って来ると、達磨さまが独り、木履を一つ持ちインドに向かって歩いてゆくのに出会

いました。「どこへ行くのですか」と問うと、達磨さまは「中国ではなすことを既になしたから天竺へ去るのだ」と答えました。この故事は後に「隻履の達磨」として描かれてもいます。

その話を聞いた王は達磨さまの葬られた、熊耳山の墓を開いてみましたが、木履が一つ残っているだけで影も形もなかったとのこと。以上が達磨さまのお話ですが、歴史的な文書に残されている史実が少なく、不明なことが多い達磨さまの一代記です。

お釈迦様の教えが中国に伝わったころは、早くそれを知ろうと学問的な受容がされましたが、達磨さまにより、自分の生き方に教えを取り入れる実践のための仏教が中国にもたらされたのです。その教えは、

- 1、「徐緩（じょかん）」。達磨さまのインドでの修行は40年、インドでの布教が67年、そして中国では面壁9年。緩やかに、時間をかけて目的に到達する達磨さまの生き方そのものです。
- 2、「唯浄（ゆいじょう）」ひたすら「浄」に徹すること。お釈迦さまが悟りを開かれた時述べたことは「悟りを開き、やっと人間の本性清浄心に気付きました。今までつまらない人と思っていた人も、みな仏の智慧を持ち、徳を備えている。しかし人々は仏様と寸分違わぬ尊い存在とは知らずに、煩惱に支配されたまま生きている」ということでした。達磨さまはそのお釈迦様の気付き、「私が本性清浄心である」を実践したのです。
- 3、「唯善（ゆいぜん）」自分の過ちを反省して、他人の悪口を言わず、他人を恨まず戒律を守る忍耐力を忘れないこと。

達磨さまはこの三種安楽法門を実践の柱にしたのです。現在の私たちの生き方の正反対の者ですよ。お釈迦様は2600年前の方、達磨さまは1500年前の人。その方たちの生き方は長い歴史を越えながら、ひとびとの生き方の指針になってきて、人々も大切に守って来ました。私たちの今の指針、コンピューターは3カ月もしないうちに新型機にとって代わられます。何が本物かしっかり熟慮しなくてはならない時だと思いませんか？



茶道コーナー

利休さんはなぜ秀吉に切腹を命じられたのでしょうか？

歴史の書物にはいろいろな理由が挙げられていますが、はっきりした理由はわかっていません。というより天正15年（1587年）頃に発する多くの要因が秀吉の感に触り一気に爆発して、切腹の命令になったように思います。その要因を村井康彦氏の「千利休」の本に探ってみました。

A、政治的な要因

石田三成の台頭による利休の孤立化が考えられます。1587年頃利休は絶頂期をむかえていましたが、小田原征伐など秀吉の国内統一のための戦いも最終段階になっていました。このころは秀吉の傘下で徳川家康・石田三成の権力抗争が続いていました。どちらかという家康に近い利休は三成から目の上のこぶ的な存在となっていました。

また、島津平定など九州征伐や朝鮮出兵に備えるため九州に重きを置くようになり、益々三成の存在感が増したのです。そして、利休が中心となって催された「北野大茶湯」は天正15年10月1日から10日間の予定で始められたのですが、肥後一揆が起こるなど、島津

平定の祝いの意味がなくなり1日で取りやめとなりました。益々利休の勢いが鈍化し、神谷宗湛ら九州の経済を担う商家達、博多衆の勢いが強まりました。

B、経済的な要因

朝鮮戦争の地固めとして北九州に派兵の拠点を置くにいたり、博多衆が台頭し、堺衆の力が相対的に沈下してゆきました。特に博多の豪商、神谷宗湛の台頭が著しく、大阪、堺、奈良での茶事に同席し、秀吉の点前を頂戴したり、九州の島津征伐の秀吉を陣中見舞いをし、その存在感を大きくしてゆきました。経済的な実権が九州に移り、利休たちの力がしだいに薄れ始めたのです。

C、美意識の差異

利休は黒楽茶碗を古き心とし最高のものとしましたが、時代は染付茶碗や、古田織部の杢形茶碗や「ゆがみ」「ひずみ」などを好み、秀吉の「雑なる心」と利休の「古き心」のすれ違いが起こり始めました。利休の発案の竹の蓋置や茶碗は九州ではすたれ始めたのです。利休の目指した「茶室の草庵化」は主客の直心の交わりを深め、極小化で一切の虚飾を切り捨て、その徹底が無限の空間を生むとの利休の美意識でした。また「一期一会」の徹底は世間話を無用のものとし、遊興性を否定し、求道の心を茶道の根幹としたのです。しかし秀吉は名物を収集し、それを使い派手な茶の湯を好みました。そして自分の権威を示し、自分への服従を誓わせる目的に茶の湯を利用したのです。利休の求めるものとはかけ離れたものになってゆきました。



D、直接原因となった出来事

1、大徳寺山門の利休像

大徳寺の山門は応仁や文明の乱で焼失しました。古溪和尚の依頼により、利休は金毛閣という壮大な重層の山門を寄進しました。そして古溪和尚の計らいで利休像が作られ安置されたのですが、像が履く草履の下を太閤様にくぐらせるとは無礼との告げ口があり、一条戻橋で大徳寺山門の利休像が磔にされました。三成の策略では？

2、「内々のことは宗易」

北条氏政親子の討伐のため小田原征伐に際し、伊達政宗の遅参が秀吉の怒りをかいました。利休はそのとりなしをするなど、秀吉側近への大きな政治力を示したのですが、逆に三成派との確執が深まりました。

また、利休の弟子、山上宗二は理論家で直言癖があったため秀吉に嫌われていましたが、小田原征伐中利休のとりなしで一度許されました。しかし再び秀吉を罵倒したため、鼻と耳を削がれ殺害されました。利休との直接関係はなかったのですが、権力者と芸術家の行く末を暗示する事件となりました。

3、秀吉への挑発

聚楽第での茶会 小田原征伐後9月10日に開催

秀吉の留守中、黒茶碗で茶を点てた利休は、黒を片付け、台子に瀬戸茶碗を飾り、「黒キニ茶タテ候事、上様御キライ候ホドニ、此分に仕候」と黒をわざわざ使い、嫌われていることを口に出しました。

“朝顔”の茶会

秀吉は乱れ咲く朝顔を見に利休の茶室に行くことを所望したが、しかし茶室には一輪のみ活けられ、あとは刈り取られていました。一輪に凝縮した美を求める利休の秀吉への挑発的行為でした。

4、宗湛へのはらはらする行為

宗湛に橋立の大壺を床の前に転ばせてみせた。

香炉の拝見所望に灰を取り出し、ころばし出した。

5、三女の問題

利休の三女が万代屋宗安の妻であったか、千紹二（利休の甥）の妻であったかははっきりしないが、夫に先立たれたのが秀吉の目にとまり、「側室に」との申し出があったが、妻の宗恩の意志もあり拒否した。

6、茶器の売買を不正に行ったとの訴え

目利きが茶湯者の条件ではあるが、身内や知人に有利な値を付けたとか、利休独特の「新物」を高く売ったとの訴えがあり、美感の違う秀吉の反感をかった。また、利休の書簡にも代償を求めたものがあり、一層利休の立場を悪くした。その奥には天正14・5年頃すでに利休の趣向と世間の趣向にずれが生じていたことがうかがい知れます。

これらの多くの理由があったにせよ、天正17年正月利休は聚光院へ父母・兄・自分たち夫婦の永代供養米、米7石を寄進しました。この寄進状に「墓に石燈籠これあり、利休、宗恩、右燈籠にシュ名これあり」とあります。2年2ヶ月後の切腹を知っていたのでしょうか。

利休の終末期は現在の日本に似ていませんか。政治や経済の中心が次第に日本から移ってゆきます。また日本の価値観が主流を放れて、中国、韓国、インドなどの価値観に世界がシフトしてゆきます。利休の切腹が日本の行く先を暗示しているようにも思われます。でも利休の教えは茶道として現在も私たちが身近に語っていますが、利休を凌駕したはずの秀吉が生きた話として私たちの話題に登ることはありません。自分という意識をしっかりと持つことが私たちに今一番必要とされています。

長生会 三河大会 長生会というのは全久院の茶道を指導していただいている、表千家家元の講師を代々務める堀内家の全国組織です。この会は講習会を各県で行ったり、全国の会員が集う茶会を開催したりしています。今年は何知州岡崎市で開催しました。全久院からも6人で参加しました。この写真は、徳川家康が再選の折り、敗残兵とともに山中や川の中に身を隠し、最後に匿われ、命の危機を脱した岡崎市内の大樹寺の茶会場です。平日なのに隣接する小学校の生徒が境内を案内し、説明をしてくれました。徳川家康の寺として市民あげて寺を守る姿に驚かされました。現在教育現場では宗教的な活動をしなくなりましたが、岡崎市民が大樹寺をどれだけ大切に、家康をどれだけ敬愛しているかが分かりました。同じ殿様の寺でも、松本市では仏教というだけで余り関わりを持ちたがらない風土とは大変な違いですね。

また茶席では度肝を抜かれる道具ばかりが使われていました。岡崎城の家老の家柄の子孫が現



在でも使っているという葵の紋が入った堂々とした台子（茶道具を点前座に置くための棚）が茶席に置かれています。しかも風炉釜に実際炭をつぎ、湯を沸かしているのですから、歴史と文化が現在の生活に密着している様を目の前にしました。六つ家が殿様に入った松本城は、松本に伝わる文化を残すことはありませんでした。伝統的なものにこだわらない革新的な風土と言えはいいのですが、歴史に関わる茶道具さえない松本と岡崎を、ついつい比較してしまいます。



法要の会場はお寺をお使ください

ここ数年このお便りなどでお知らせし続け、お寺を使っただけがしだいに檀家様に浸透してきました。10年ほど前から葬儀や法事が民間の業者のホールで行われるようになり、葬儀に関しては一軒もお寺で行われない年がありました。今年は半数ほどの葬儀が寺で行われるようになりました。何度もこの紙面にて報告していますが、ホールを使った葬儀や法事は、最新の設備を備え便利で快適ですが、その分費用はビックリするほどです。

葬儀費用を比較してみますと100人のお参りの人がくる葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、業者ではお参りの人一人当たり25000円かかるという計算をしています。100人の会葬者があるとすると、100人×25000円=250万円。寺を使えば一人当たり10000円ほどですので、100人×10000円=100万円。差し引き150万円の差が出ます。

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部（電話32-8700）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）へ電話するだけです。後の手続きはみな業者がやってくれます。

「積立金があります」と言われますが、それが30万円としても、120万円浮いてきますし、その積立金を法事などで使うこともできます。安ければ良い葬儀だとは申しませんが、華美で必要以上の経費をかけた葬儀や法事は考えものです。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れてしまいます。戒律を授かり、菩提寺の住職に戒名を付けていただき、心一つになった方々に送られて仏様になる、という葬儀の意味はやはり自宅や寺という場所でなければなりません。様々な事情で仕方がない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っただけがいいと思います。イスに坐っていただけるよう、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非一考ください。いざという時では業者の言うなりになってしまいます。自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。葬儀の後請求書を見て子孫をビックリさせるようなことだけはしないでいただきたいと思います。

りらの会にご協力ください 寺での法要の手伝いをしていただいているグループが「りらの会」です。現在は10人ほどで、週一回の掃除と、随時いらいされる法要の手伝いをしていただいています。檀家の皆様にもぜひ会員として登録いただき、お手伝いいただきたいと思ひます。お手伝いの条件は、1時間1000円ほどの時給をお渡ししていますが、そのうち会の運営費を

若干納めていただいています。「人のお手伝いできて、させていただける分、させていただいている自分のほうが心豊かになっているように感じます」と会員の方から言われ本当にうれしく思っています。皆様のご参加ぜひお願いいたします。

住職の活動

SVA30周年 私

が常務理事を務めていますSVA（シャンティー国際ボランティア会）では東南アジアやアフガニスタンに学校や図書館を作る教育支援をしたり、伝統的な生活や文化を復興させる活動をしています。去年で発会30年になり、当時カンボジア難民キャンプで働いた仲間が集まり、当時の旧交を温める催しを行いました。



1980年外務省の依頼が曹洞宗にあり、カンボジア難民救援の活動が始まりました。当時私はまだ駒澤大学の大学院生で、時間が自由になったことと、多少英語を話すことができたので、この活動に参加して1年間タイ国にボランティアとして滞在しました。この写真はキャンプ内に図書館を作り、カンボジアの伝承話しや、戦争のない平和な国を目指す本を作るグループを立ち上げた時のものです。真ん中の赤いTEEシャツが私です。当時はよくタイ人やカンボジア人に間違われました。



その頃の話をしながらもう一度SVAの原点を見直し、新たな力でSVAの活動に当たろうとの趣旨で、懐かしい仲間が集まりました。もうタイ人には間違われにくいくらい外見は変わってしまいましたが、様々な経験をつぎの若い世代に繋げてゆきたいと思っています。

俊浩本山奮闘記

俊浩は本山修行も5年10ヶ月となり、現在「副悦（ふくえつ）」という役を務めています。副悦は修行僧を束ねる要の役で、修行僧としてはこれ以上の役職はありません。ですから次の役に上がることはありませんので、役職交代の時期の1月か4月には修行を終えることになりそうです。しかし、この役まで務めることは修行僧の中でもまれなことですし、責任の重いことですから、俊浩にとっては大変良い経験になるかと思えます。

修行に入る時、何時まで務められるかな？辛くて逃げて帰って来るかな？などと心配していたものですが、本当に本山で鍛えていただくことが出来たと感謝しています。1月、本山直末会（本山直系の寺院の会）の年賀拝登（ねんがはいとう、新年の挨拶）に、大本山総持寺に行きますが、しっかり彼の働きと、修行の様子を見てこようと思っています。

大黒コーナー

あひるの会 発表会 松本芸術館主ホール

「あひるの会」は県ヶ丘高校の音楽部OBが中心に組織された合唱団で、毎年定期発表会を行っています。大黒はボイストレーナーとしてこの会に参加していますが、昨年9月30日まつもと市民芸術館主ホールでコンサートが開催されました。一部は「懐かしき日本の歌」で「赤とんぼ」や「かあさんの歌」など。二部はアメリカのグループ、カーペンターズ

のメドレー。三部は世界の「合唱の歴史をたどって」ということでルネッサンスから現代までの合唱曲が素晴らしいハーモニーによって歌いあげられました。大黒はその中で1曲ソロのパートを担当しました。後日談で、県ヶ丘高校のOB「手仕事や吉兵衛」さんが聞きに来ており、後日のラジオ番組でソリストを絶賛したとかしないとか？



歌劇 ラ・ボエーム公演 プッチーニ作曲 歌劇ラ・ボエームを5月12日（日）2時より、まつもと市民芸術館主ホールで開催します。ボエームはパリの下町の安アパートに集まる芸術家の卵たちの、青春を謳歌し、貧しいながらも夢と友情に満ちた生活を描いたものです。その主役の「ミミ」を大黒が歌いあげます。ソプラノのソロでは最高音を要求される曲で、大黒もこのオペラを目標にずーっとトレーニングしてきましたので、彼女の集大成ということになるかと思えます。

また今回は合唱もご注目ください。大黒が指導している合唱団のほかに、今回のために特別に編成された小学生中心の合唱が出ます。低学年生も含め、イタリア語の原語で参加します。合唱部分は大分仕上がってきて、ソリストとの合唱の合わせも始めています。また伴奏もピアノ、バイオリン二人、ヴィオラ、チェロで編成され、音の厚みも増しています。

ぜひ皆さんにも聞きに行ってくださいたくご案内いたします。全席自由で大人3500円、小中高生1000円です。お問い合わせは全久院までお願いいたします。



掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

・・・ 檀信徒護持会新年総会 ・・・

1月19日（土）4時より全久院で開催します。全久院の催しに参加していただいている方々など、より多くの方に参加していただきたく企画しています。茶道部の皆さまの協力により、**3時より茶室にて薄茶**を差し上げます。お正月の新たまった飾りつけの中、日常とは少し違った雰囲気味わい、檀家の皆様にも堅苦しくなくお茶に触れていただこう思います。**4時より本堂にてお参り**、その後座禅会の皆様と**5分間座禅**、**4時15分より懇親会**、**4時半より護持会総会**となります。総会は皆さまから頂戴している護持会費の会計報告など承認いただき、懇親会ではご詠歌の皆さんと観音講の方によるご詠歌の奉詠を数曲お願いします。また南こうせつさん作詞作曲の「まごころに生きる」を皆さんで合唱します。次に観音講の皆さんで歌っている唱歌を何曲か、みなさんにも歌詞を配り合唱していただこうと思います。今年から「歌の会」の皆さんも加わります。一年の初めを皆さま心豊かに過ごし、良い年であるよう祈念したいと思います。総代様のお顔を覚えていただいたり、人柄に触れていただき、全久院のことをいろいろ語り合いたく思います。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は1月16日（水）までに電話でご

連絡ください。

・ ・ ・ 青山俊董師特別講演会 ・ ・ ・

4月13日(土) 3時から6時まで 参加費500円

座禅会主催により、座禅会で勉強している「従容録」をもとにお話しをいただきます。曹洞宗では「従容録」は坐禅のテキストに当たります。お釈迦さまや達磨さまや、中国の歴史上有名な老師さま方がどのように悟りを開かれたか、お弟子さま方とどんな禅問答をされたかが解説されており、修行の手助けとなる書物です。難しいお話と思われそうですが、青山師の体験談などを交え分かりやすくお話いただきます。また私たちの生き方にも多くの示唆をいただけます。お話しを聞きたいという方は檀家さま以外の方でもご自由に参加できますので、お誘いあわせておいでください。



・ ・ ・ 座禅会 ・ ・ ・

4月13日(土) 3時より青山俊董師講演会・2月16日(土)・3月16日(土)・4月20日(土)・5月18日(土)・6月22日(土)・7月27日(土)・9月21日(土) 以上が上半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみることを是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。

・ ・ ・ ご詠歌会 ・ ・ ・

2月14日(木)・3月14日(木)・4月11日(木) 2時より・5月9日(木)・6月13日(木)・7月11日(木)・9月12日(木)

午前10時より11時半まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。

・ ・ ・ 観音講 ・ ・ ・

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱、11時20分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在15人ほどの参加者がいます。気寄りが良く60代から90代の方が元気に集まって来ます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

・ ・ ・ 歌の会 ・ ・ ・

1月16日(水)・1月30日(水)・2月6日(水)・2月20日(水)・3月6日(水)・3月13日(水)・4月3日(水)・4月24日(水)・5月1日(水)・5月15日(水)・6月5日(水)・6月19日(水)・7月3日(水)・7月17日(水) 13時~15時・8月7日(水)・9月4日(水) 大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと、好評です。10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。